

マテリアリティ(重要課題)の特定

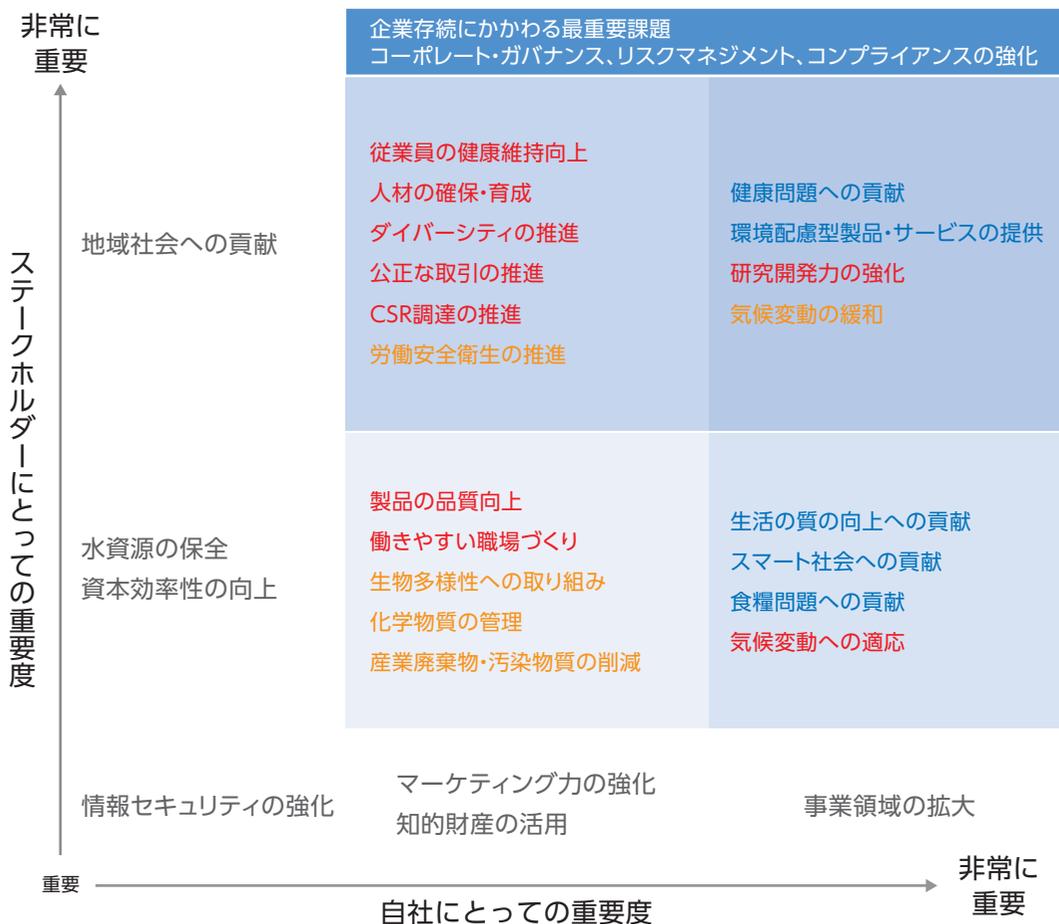
当社は、激しさを増す事業環境の変化に対応することに加え、社会課題の解決に貢献し、2030年の企業像を実現するために取り組むべきマテリアリティを特定しました。

まずはじめに、当社グループの長期経営計画ならびに中期経営計画を踏まえたうえで、ESG(環境・社会・ガバナンス)関連の評価指標やガイドラインを参考にして、500超におよぶマテリアリティのキーワードを洗い出しました。

そして、各キーワードをもとにマテリアリティ要素を検討し、自社にとっての重要度とステークホルダーにとっての重要度の観点で自社評価を行いました。

その後、自社評価の結果について6名のステークホルダーと意見交換を行い、その内容を取り入れて社内で議論を重ね、マテリアリティ・マトリックスを策定しました。

課題の洗い出し	自社評価	ステークホルダー視点の加味	マテリアリティの特定	社内承認 (取締役会決議)
人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値の提供	5つのコア技術をベースとする4事業を通じて、人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値の提供を目指します			
自社の事業基盤の強化	多様化・高度化する市場の要求への対応力を高めるために、事業基盤の強化を目指します			
レスポンシブル・ケア活動の継続的強化	日産化学レスポンシブル・ケアマネジメントシステムの運用を通じて、環境・健康・安全確保の強化を目指します			



マテリアリティ	要素	当社の主な取り組み
<p>人々の豊かな暮らしに役立つ 新たな価値の提供</p> 	<p>健康問題への貢献</p> <p>環境配慮型製品・サービスの提供</p> <p>生活の質の向上への貢献</p> <p>スマート社会への貢献</p> <p>食糧問題への貢献</p>	<p>医療ニーズに対応する医薬品、先進医療に貢献する生体材料の創出</p> <p>ディーゼル車の排出ガス浄化用の高品位尿素水の販売、未利用エネルギーの活用に資する環境発電材料の開発</p> <p>ペット用動物用医薬品の提供、飲料水用殺菌消毒剤の販売</p> <p>IoTに必要なセンサー材料、データ通信の大容量・高速化に寄与する配線材料の開発</p> <p>農作物の収量拡大と農業の省力化につながる農薬の供給、動物用医薬品の家畜への展開</p>
<p>自社の事業基盤の強化</p> 	<p>研究開発力の強化</p> <p>製品の品質向上</p> <p>従業員の健康維持向上</p> <p>働きやすい職場づくり</p> <p>人材の確保・育成</p> <p>ダイバーシティの推進</p> <p>公正な取引の推進</p> <p>CSR調達の推進</p> <p>気候変動への適応</p>	<p>コア技術の深化、オープンイノベーションの推進、AI等新技術の導入</p> <p>品質方針に基づく継続的なマネジメントシステムと業務の改善</p> <p>健康推進委員会による健康推進施策の検討、メンタルヘルスチェック</p> <p>ワークライフバランスの推進、ハラスメント対策、育児・介護支援</p> <p>教育・能力研修の提供、海外留学制度の導入</p> <p>女性の活躍推進、外国人留学生の採用、障がい者雇用の推進</p> <p>下請法やインサイダー取引規制に関する社内教育の実施</p> <p>取引先へのCSRに関する質問票調査、監査の実施</p> <p>自然災害による工場の操業不能に備えたBCPの策定</p>
<p>レスポンシブル・ケア活動の 継続的強化</p> 	<p>気候変動の緩和</p> <p>労働安全衛生の推進</p> <p>生物多様性への取り組み</p> <p>化学物質の管理</p> <p>産業廃棄物・汚染物質の排出削減</p>	<p>設備改善による省エネルギー化、GHG排出量削減につながる燃料転換</p> <p>労働安全マネジメントシステムの確立、安全への設備投資の実行</p> <p>ビオパークの運営、NPO法人「黒浜沼周辺の自然を大切に作る会」の支援</p> <p>化学製品の全ライフサイクルにおける人の健康や環境への悪影響の最小化</p> <p>廃棄物の再利用や再資源化、中間処理方法の変更による最終処分量の削減</p>